

第19回 樹木医対象 リモート配信講座プログラム

開催日時：令和5年10月24日（火）19:00～21:00

樹木医の皆様を対象に、NPOおおさか緑と樹木の診断協会と（一社）日本樹木医会大阪府支部で配信していますリモート配信講座は、これまで土曜日の午後に開催してきました。「第19回講座」は初めての試みとして平日の夜の開催としました。土曜日に視聴できないとの声が寄せられ、対応を協議した結果、10月24日火曜日の夜に開催させて頂くことになりました。

第19回講座テーマ：

「都市樹木の定量的な生体評価手法とその活用例」

近年の気候変動への対応やSDG'sへの取り組みが社会で必要となるなか、都市樹木の果たす役割の重要性を樹木医の皆様はご存知です。しかし、まだ一般にはその重要性が認識されずに、結果的に伐採や強剪定がなされている実態を多く見かけます。欧米ではi-Treeというコンピューターアプリケーションを用いて、二酸化炭素固定量をはじめとする樹木がもたらす便益を定量化や貨幣価値換算し、樹木の維持管理や一般市民への啓発ツールとして活用されています。

今回は日本でその取り組みを実践されているお二人の講師に登壇頂き、樹木の定量的評価手法とその活用例を紹介頂きます。

主催：（一社）日本樹木医会大阪府支部、NPOおおさか緑と樹木の診断協会

開催日時：令和5年10月24日（火）19:00～21:00

開催方法：Zoomでのリモート参加（定員80名）

樹木医CPD：2単位申請中

対象：日本樹木医会所属樹木医、NPOおおさか緑と樹木の診断協会員

参加費：無料

申し込み方法：次よりお申込みください

<https://kokc.jp/e/14a53eb721ea374e54b9b84007762a72/>

＜プログラム＞

（*Zoomへの入室は18:50過ぎからとなります。）

19:00-20:00【第一講座：講座No.52】

「都市樹木がもたらす生態系サービスの定量評価の意義とその試行事例
（久留米市・ブリヂストン通りのケヤキ並木）」

都市樹木が様々な生態系サービスを人間社会にもたらしていることは周知の事実ですが、その総合的かつ定量的な評価は難しい。本講座では都市樹木の生態系サービス評価の試行事例として、久留米市での研究を紹介頂きます。

香川大学創造工学部助教 農学博士 小宅 由似（おやけ・ゆい）

専門分野は緑化学。近年の研究対象は、緑化法面の植生の移りかわり、里山林の再生・創出・維持、

街路樹や公園樹木の生態系サービス評価、小規模グリーンインフラの導入など多岐に渡る。

20:00-21:00【第二講座：講座No.53】

「樹木価値の定量化システムの概要 / 実装に向けた取り組みの課題と展望」

世界標準となっているiTree Ecoをベースとし、日本の気候や樹木の成長特性のデータを取り入れて開発されたU-GREEN。日本版の樹木価値定量化システムを開発してこられたご本人に、地域特性や目的に応じて当システムをどう活用すべきか、実例を交えて展望を共有頂きます。

東邦レオ株式会社 大庭 義也（おおば よしや）

学生時代から景観情報の定量化に関する研究を行いながら、地域のまちづくり活動に携わり、住民の合意形成や広場空間の設計業務を実施。東邦レオ入社後はその経験をもとに定量-定性の両面での緑の価値向上に取り組む。